

新しい看板を設置しました



新たに設置した2種類の看板

佐渡市では、現在、相川にふさわしい案内看板を整備する計画を立てており、そのあらましを本紙第16号にてご紹介しました。

今年3月、その取組みの第一弾として、上町と下町の数カ所に新たな案内看板を設置しました。新しい看板は、来訪者が迷わずに鉾山町相川を散策できるように、設置場所に配慮し、情報の伝え方も整理されています。デザインも、風景の一部として、相川の町並みに馴染むように細部まで検討を重ねたものです。

今後も引きつづき、町並みの保存とともに看板の整備を進めていく予定です。ぜひ現地でご覧いただき、ご意見や感想をお寄せください。

相川 あいかわらばん 瓦版

第21号

2016年5月25日発行
 発行：佐渡市世界遺産推進課
 電話 0259-63-5136
 FAX 0259-63-6130
 編集：佐渡市世界遺産推進課
 新潟県教育庁文化行政課
 世界遺産登録推進室

景観に配慮した建物の修復や、空き家の活用を促進するために、その費用の一部を市が補助します。詳しくは佐渡市のホームページをご覧ください。窓口にご連絡いただければ、事業の案内をお送りします。

★補助金でこんなことができます

- ◇傷んだ建物の修繕 ◇空き家の買取り・活用 など

建物の修繕については、景観に配慮した工法などに変更をお願いすることがあります。

★手続きのながれ

- ①補助対象になる建物・補助内容を確認
市ホームページに対象区域・対象建物の一覧表があります。
- ②補助金交付の申請
申請期限6月30日(木)までに、必要な書類を揃え、窓口にご提出ください。
- ③補助金交付(不交付)の決定
審査の後、申請者へ交付(不交付)を通知します。
- ④補助金の交付
補助対象の工事・物品購入などの完了後、書類を窓口にご提出いただき、内容に問題がなければ補助金を交付します。

◆窓口・お問合わせ先

佐渡市 世界遺産推進課 調査係
 電話 63-5136 / ファックス 63-6130
 メール k-goldmine@city.sado.niigata.jp

◆市ホームページ

<http://www.city.sado.niigata.jp/>
 暮らしのガイド>地域づくり支援
 >佐渡市世界遺産町並み保存支援事業

募集中 世界遺産 町並み保存支援事業
 景観に配慮した建物修理や空き家活用を支援します

新人職員の紹介

4月から世界遺産推進課に加わった新人職員 筆保文哉(ふっぼふみ)文化財保護技師を紹介いたします。

出身地 山形県寒河江(さむがえ)市(さくらんぼが有名です!)

出身学校 伝統文化と環境福祉の専門学校の伝統建築学科で学びました。

学生時代に学んだこと 伝統建築について学ぶなかで、実際に佐渡の社寺の修復なども体験しました。

佐渡に暮らしてみても 最初は島ということもあり不安でしたが、今では住み慣れた第二の故郷のように感じています。

おもな仕事内容 鉾山に関する建造物の保存や整備に関することです。

相川の皆さんへ一言 まだ分からないことばかりですが、日々精進していきたくです。皆さんよろしくお願ひします。



文化財保護技師 筆保さん



今月のにゃんじー

魅惑のエンドピーピー

暖かくなり、色とりどりの草花が顔を見せています。にゃんじーが、何やらたくらみ、前足に持っているのは「エンドピーピー」です。

植物の実のさやで、中にある豆をとって息を吹き込むと音が鳴り、笛になります。佐渡では「シービビ」とも呼ばれているそうです。



エンドピーピー ※学名「ヤハズエンドウ」

次号第22号は7月8日刊行予定

お知らせ 今号は「相川今昔」をおやすみします。

見学報告 **その3** 歴史を活かした各地のまちづくり



「NPO法人旧五十嵐邸を考える会」として、市から委託を受けて建物や敷地の管理をおこなっている。

手入れがゆき届いた中庭に
みえる季節の草花



旧五十嵐邸は、町家の骨格に洋風デザインを取り込んだ建物。掃除がゆき届いた邸内は清潔感たっぷり。

みがかれたガラス窓から
日が差しこむ元診療室

「NPO法人旧五十嵐邸を考える会」の活動 会員の9割が地元のご婦人!!



心のこもったおもてなし

女性たちとの意見交換

とにかく楽しそうに活動されていた蒲原の皆さん。その一方で、会員の高齢化などの課題を抱えながらも、確固たる信念をもって建物や地域の魅力を伝えるために取り組んでいます。楽しく活動するコツを蒲原の皆さんに尋ねました。



楽しく活動するコツ

- ・五十嵐邸という共通の話題、同じ目的や関心をもった人と話せるのが楽しい。
- ・ゆるいつながりが大切。集まりに出席することを強制しない。
- ・お茶やお花など、メンバーそれぞれの趣味や特技を活動にいかしている。
- ・手伝うだけのつもりが、楽しくて気づいたら会員になっていた。
- ・孫やお嫁さんも一緒に活動しており、自分の家のような場所。

- ・一生懸命やれば誰かが見ていてくれる。
- ・会員は女性が多いが、男性の力も必要。
- ・活動に参加した人が、その次から友達を連れてきてくれ、活動の輪が広がっていった。
- ・夏休みに近所の子供が宿題をやり五十嵐邸にやってくる。
- ・とにかく五十嵐邸の建物が大好き!
- ・町を訪れる人が「この家いいですね」と声をかけてくれると、地元は誇りをもてる。
- ・しなやかに、したかかであること。

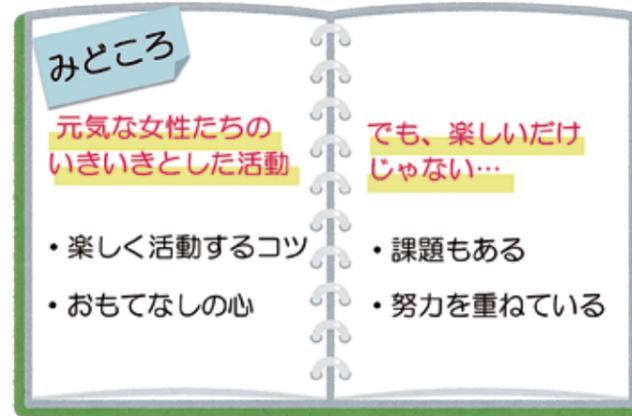


地元食材をいかした
手づくり料理

昼は駿河湾特産「桜えび」など地元食材を使った手づくり料理を邸内の座敷でいただいた。皿にしかれた柿の葉や、箸置きに紫式部はご婦人宅の庭に咲いていたもの。



私たちが邸内を見学する傍ら、昼食の支度をする蒲原のご婦人。邸内に残る昔ながらの台所は今も現役。小学生を対象にしたお泊り会を催し、かまどでご飯を炊いたそう。



みどころ

元気な女性たちのいきいきとした活動

- ・楽しく活動するコツ
- ・おもてなしの心

でも、楽しいだけじゃない…

- ・課題もある
- ・努力を重ねている



旧東海道・蒲原宿（静岡市清水区蒲原地区）江戸時代の宿場町の面影を伝える本陣跡や町家、大正から昭和初期にかけての洋風建築などが、この地区のあゆみを物語っている。



旧五十嵐邸歯科医院（国登録有形文化財）現在は市の施設であり、女性たちの活動拠点となっている。建物は見学可能。

静岡蒲原

女性ががんばる宿場町

報告第三弾は、静岡県の蒲原地区の取り組みです。蒲原は東海道五十三次の15番目の宿場で、江戸時代には本陣や脇本陣が設けられ、45軒の旅籠屋が建ち並びました。現在は静かな住宅街となつていますが、かつてのにぎわいがかがわされる建物が街道筋にみえます。見学では、街道沿いにある「旧五十嵐邸歯科医院」という建物を訪ねました。歯科医院兼住宅として大正期に建設された洋風町家です。医院としての役目を終えた後は住宅として使用され、

その後はしばらくは空き家となつていましたが、五十嵐邸を保存するための活動がさかんになり、平成12年に国の登録有形文化財となりました。活動は今もつづいており、その多くは地元のご婦人たちが中心となりおこなわれています。当初、五十嵐邸の掃除から始まった活動は、その裾野を広げ、調度品の調査から修復工事への参加、邸内ガイド、子供向けの昔のくらし体験イベントなど、さまざまです。五十嵐邸を愛するご婦人たちが、女性ならではの視点で楽しくいきいきと活動されています。現在の五十嵐邸は、地域のサロンとして、子供からお年寄りまで、多くの方々が訪れる場所です。見学では、活動する女性たちにお会いし、楽しく活動するコツなどを教えていただきましたので、その一部を紹介します。（見学報告は今号で終わりです）

「旧五十嵐邸歯科医院」(静岡市清水区蒲原3-23-3)見学無料、月曜日・年末年始・祝日の翌平日は休館
東海道新幹線「静岡駅」からJR東海道線に乗りかえて約30分で最寄駅「新蒲原駅」に到着。